

# 事前にVRTを実施し、仕事体験を充実させる

一連の流れを継続的キャリア教育につなげることが課題

川崎市立麻生中学校では、コロナ禍により2021年度は2年生での職場体験の代わりにキッザニア東京での仕事体験を行うことになりました。定年退職後に非常勤講師として勤務されていた齋藤茂先生は、その体験学習に臨む前に職業レディネス・テスト（VRT）の実施を提案しました。

川崎市立  
麻生中学校

## ●川崎市立麻生中学校

所在地：神奈川県川崎市麻生区上麻生 4-39-1  
創立：平成3（1991）年  
生徒数：437名（2022年4月現在）



齋藤 茂 先生

元川崎市立福田中学校教諭  
キャリアコンサルタント  
定年後に非常勤講師として麻生中学校に勤務。中学校の現場でのVRT活用経験は10年以上に及ぶ。

## ●VRTの導入

VRTは以前勤務していた中学校で数年にわたり活用し、テストへの信頼を持っていました。2021年度は先生に紹介しました。2021年度は中学2年生で職場体験の代わりにキッザニア東京での体験を行うことになり、せっかくなら、事前にVRTを実施することで生徒に仕事について何かしらの知識と心構えを持ってほしい、そしてキッザニアでの体験学習を充実させてほしいと思いました。

## ●VRT実施まで

VRTを実施する前に2回ほど講演し、中学校での校内学習が社会生活とどのように結びついているかや、世の中は様々な仕事があって成り立っていることを伝え、VRTを実施することで何がわかるのかを説明します。いずれも話の後に20分ほど、4人グループでの振り返りの時間を設けています。各自振り返りシートに記入し、発表し、また自分で考えます。それによって、「自分の考えを明確にし、友達に伝える、友達のことを聴く」というコミュニケーション能力を身に付けることが目的です。こういったことは練習しないとなかなかできるようなれないので、練習を兼ねて行っています。この振り返りの時間は講演の話と同じくらいとても大切です。

そして、VRTを実施します。実施1コマ、集計と結果の見方・生かし方の作成・説明1コマ、VRTを受けて

の振り返り1コマの計3コマの時間をスケジュールに組み込むことが、なかなか難しい課題でした。

ただ、生徒からは「人の話を聞けて良かった」「こういう場所だから話が聴けた、話せた」「友達がこんなことを考えているなんてびっくりした」などの感想があったので、振り返りの時間はぜひ取ったほうがよいですね。

## ●キッザニアの体験学習へ

キッザニア東京での仕事体験では、一人ひとりがテーマを持って行くことになっていました。各自が設定したテーマに沿って体験したいアクティビティ（仕事）を4、5種類選びました。選ぶ際は、VRTの結果もヒントになっていますが、それが直接適職を示しているわけではないので、結果だけにとらわれることなく選びます。VR

Tの興味と同じ方向のアクティビティを選んだ場合は、実際に体験することなどで「自分が考えていたのとは違うな」など見えることが多いので、やはりやってみることは大切ですね。

コロナの感染拡大の影響で、キッザニア行きが1カ月半ほど延長になったので、調べたことを発表するなど、準備にはかなり時間をかけました。終了後は、振り返りを行いました。時間の関係でグループでの話し合いは実施できず、ワークシートを記入して体験をまとめました。キッザニア東京はとも楽しい体験だったようで、生徒も先生も生き活きとしていましたよ。

## ●VRTの良い点、留意点

良い点は、客観的なテストであり、「興味のあること」「自信のあること」がわかりやすく、多くの生徒が結果に

## ●振り返りシート「VRTを受けて」（齋藤先生作成）

グループの話し合いルール （読んで共有する）

- 一人ひとりの話を尊重し、注意を払ってきちんと聴く。
- 友達の見解を一方向的に判断したり、決め付けたりしない。
- また、自分自身のことも決め付けない。
- 素直に意見を言い合う。
- 積極的にグループに参加する。
- グループの時間を独占しない。

「職業レディネステスト（VRT）」を受けて  
2. 年 組 番 氏名

私の標準得点

	現実的	研究的	芸術的	社会的	企業的	慣習的	情報	人	物
A 検査							日検査		
C 検査									

1. 気に入った職業・仕事、印象に残った言葉や内容。（3分）  
職業・仕事、言葉や内容（1分）

その理由（2分）人にも説明できるように書く

2. 自分の発表（1分） 質問・答え（2分）  
友達の発表を聞いて思ったことメモ（1分）

3. 話し合いで感じたこと、考えたこと（3分）

●生徒の感想 (VRT実施後の振り返りシートより)

- 友達いろいろな考え(正反対の意見、個性)を聞くことができて良かった。
- 知らなかった職業が気になった。職業の幅が広がった。いろいろな感情が出てきた。
- 友達は決まっていて、自分はまだまだと自覚した。自分も将来を真剣に考えたい。
- 身近なものに楽しさを感じ、好きなものになりたい職業につながっていた。
- 自分のしたいこと、好きなことをもとに考えてよいと思った。
- 自分の特徴や持ち味を知ることができて良かった。もっといろいろな職業を知りたい。

成長過程にいる中学生は、VRTの結果は、将来の職業を考える上での入り口、きっかけであって、留意点は、このテストにより、適職が診断されると思われてしまう可能性があることです。VRTの結果により「この職業はあなたに向いていないのでは」などと先生が指導してしまうことも避けなければなりません。VRTの結果は、将来の職業を考える上での入り口、きっかけであって、成長過程にいる中学生は、VRTの結果は、将来の職業を考える上での入り口、きっかけであって、留意点は、このテストにより、適職が診断されると思われてしまう可能性があることです。VRTの結果により「この職業はあなたに向いていないのでは」などと先生が指導してしまうことも避けなければなりません。

納得するテストであるということ。ほぼ全員が「自分の将来の職業(仕事)が、好きなこと・興味あることとつながればよい」と思っているということが、生徒の感想・反応から感じ取れました。

また、教員からは「VRTは面白い。一人ひとりの個性はそれぞれだというのはいつもわれわれが言っていることだけれど、それを可視化して結果が出るものとしてまとめたところが良い」という声が上がっています。

●麻生中学校 キzzaニア東京での仕事体験前後の流れ (2021年度)

事前講演

- 講演①**
- テーマ「なぜ勉強するの？」
- 中学校で学習する各教科・特別活動の役割、目的、ねらいを明確にし、理解・意識して活動することを促す。
  - 9教科、総合的な学習の時間●世の中のいろいろな情報を正確に理解し、適切に取捨選択するために必要なことを学ぶ。
  - 特別活動●行事、生徒会活動、部活動、学級活動は、学び、考え、計画したことを疑似社会で実践する場であり、それを磨く場でもある。一般的な社会活動における初心者、中堅、リーダーなどにも似て1、2、3年生それぞれの役割があることなどを知る。

- 振り返り**
- 4人でのグループ討議による振り返り。

- 講演②**
- テーマ「仕事」
- 社会の変化や仕事の流れを説明し、自分のやってみたい職業への関心を高める。
- VRTを実施する意味**
- なぜVRTを実施するのか、実施することで何がわかるのかを説明。自分は何に興味があるか、どんなことができるか、といったことを自分でわかっておくこと、そして今後それらをますます磨いていくことが大切だと伝え、VRTの実施につなげていく。

- 振り返り**
- 4人でのグループ討議による振り返り。

職業レディネス・テスト

- VRTの実施**
- 採点、結果の整理、「結果の見方・生かし方」によるワーク
- 振り返り**
- 4人でのグループ討議による振り返り。
  - 気になったこと、印象に残ったことを各自振り返りシートに記入し、人に説明できるように理由も書く。
  - 書いた内容を基に、「グループの話し合いのルール」を守りながら発表し、質問に答える。
  - ほかの人の発表を聴いて思ったことをメモし、聞きたいことがあれば質問する。

キzzaニア東京体験

- 事前準備**
- 一人ひとりが自分のテーマを設定し、アクティビティを選ぶ。
  - 「みんなの役に立つ」「SDGsの中のこれ」など、キzzaニア東京での仕事体験のテーマを決める。
  - テーマに沿って、体験したいアクティビティ(仕事)を4、5種類選ぶ。
  - 参加企業について調べる。
- キzzaニア東京での仕事体験**
- 同じアクティビティを選んだ人同士でグループを作り、実際に仕事を体験。
- 振り返り**
- ワークシートを記入して体験をまとめる(時間の関係でグループでの話し合いは実施できず)。

果を自分自身に落とし込むのに時間がかかると考えています。なぜなら、VRTの興味・自信・基礎的志向性を参考にしながら、教科・特別活動を通して価値観・アイデンティティを獲得していくと思われるからです。

**課題と期待**

教員を定年退職し、少し離れた位置

から教員の仕事を見ていますが、先生は中間テスト、三者面談、夏休み、川崎市中学校総合体育大会、期末テスト、前期終業式、文化祭や合唱祭の準備等々、多くの行事が重なっていて、負担の大きさを感じます。そのような中でもVRTやキzzaニアの体験を一つのイベントとして終わらせてしまうのではなく、いかにキャリア教育への関

心を持ち続け、継続してVRTを実施することができかが課題ですね。

VRTの実施やキzzaニアでの体験学習を一つの柱に、生徒みんなが興味・能力・自信・価値観を毎日の生活の中で磨いていって、将来に向けて生き生きとした人生を送れるようになることを願っています。